

## 令和3年度 看護学研究科教育改善計画

研究科名	看護学研究科
研究科長名	高橋和子

<b>1-①. 令和2年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究に関する学修の機会を効果的に活用し、看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">本学研究科の大学院生は、ほとんどが社会人入学であり、研究の基礎的学修の機会がこれまであまりなかったことが想定される。学会参加や研究科セミナー等、研究に関連する活動の満足度が、他に比べて比較的、低いことから、理解不足や、大学院での学修の機会が、活かしきれていないことが推測される。</td> </tr> </table>	課題	研究に関する学修の機会を効果的に活用し、看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。	理由	本学研究科の大学院生は、ほとんどが社会人入学であり、研究の基礎的学修の機会がこれまであまりなかったことが想定される。学会参加や研究科セミナー等、研究に関連する活動の満足度が、他に比べて比較的、低いことから、理解不足や、大学院での学修の機会が、活かしきれていないことが推測される。
課題	研究に関する学修の機会を効果的に活用し、看護実践と研究を結び付けられる能力の向上を図る。				
理由	本学研究科の大学院生は、ほとんどが社会人入学であり、研究の基礎的学修の機会がこれまであまりなかったことが想定される。学会参加や研究科セミナー等、研究に関連する活動の満足度が、他に比べて比較的、低いことから、理解不足や、大学院での学修の機会が、活かしきれていないことが推測される。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">大学院生の学修状況の多様性を考慮した研究指導体制の充実を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">社会人入学が多く、勤務しながらの学修であることに加え、コロナ禍により、更に通学の調整が難しくなっている。遠隔地から通学している大学院生の移動への配慮や、全体的にも職場および家庭での理解を得ながらの学修の継続が必要とされている。</td> </tr> </table>	課題	大学院生の学修状況の多様性を考慮した研究指導体制の充実を図る。	理由	社会人入学が多く、勤務しながらの学修であることに加え、コロナ禍により、更に通学の調整が難しくなっている。遠隔地から通学している大学院生の移動への配慮や、全体的にも職場および家庭での理解を得ながらの学修の継続が必要とされている。
課題	大学院生の学修状況の多様性を考慮した研究指導体制の充実を図る。				
理由	社会人入学が多く、勤務しながらの学修であることに加え、コロナ禍により、更に通学の調整が難しくなっている。遠隔地から通学している大学院生の移動への配慮や、全体的にも職場および家庭での理解を得ながらの学修の継続が必要とされている。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">大学院生の学修活動や研究活動を効果的にサポートする学修環境の整備を図る。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">院生室の設置しているパソコンの計画的更新、コピー機やプリンターのメンテナンス、図書館の利用環境の改善等、必要性に合わせた見直しと整備を要する。また、専門看護師養成コースにおける看護実践力強化のためのスキルスラボの整備が必要である。</td> </tr> </table>	課題	大学院生の学修活動や研究活動を効果的にサポートする学修環境の整備を図る。	理由	院生室の設置しているパソコンの計画的更新、コピー機やプリンターのメンテナンス、図書館の利用環境の改善等、必要性に合わせた見直しと整備を要する。また、専門看護師養成コースにおける看護実践力強化のためのスキルスラボの整備が必要である。
課題	大学院生の学修活動や研究活動を効果的にサポートする学修環境の整備を図る。				
理由	院生室の設置しているパソコンの計画的更新、コピー機やプリンターのメンテナンス、図書館の利用環境の改善等、必要性に合わせた見直しと整備を要する。また、専門看護師養成コースにおける看護実践力強化のためのスキルスラボの整備が必要である。				
<b>1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学研究科博士前期課程修士論文作成までの「道のり」を活用し、計画的な研究活動の取り組みと必要な学修ができるように助言する。</li> <li>・大学院生のニーズや、学修状況に応じたテーマで研究科セミナーを行い、研究に関する理解を深める機会を設定する。</li> <li>・相互補完的に互いに学び合いながら学修を進められるよう、大学院生同士のつながりを強めるための方策を検討する。</li> </ul>				
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人院生、遠方から通学している大学院生等、日程や指導方法など、可能な範囲で調整し、多様な学修の機会を提供する。</li> <li>・大学院生が複数の教員の指導を早期に受けられるよう、教員に対し、主副指導教員による指導体制整備を周知する。</li> <li>・希望に応じて夜間・休日対応を検討し、勤務等での制限がある学生においても希望する学修ができるよう、調整を図る。</li> </ul>				
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生室のパソコン等、使用状況を把握し、不足しているものの整備やメンテナンスの必要性を確認する。</li> <li>・学内の使用可能な施設について、使用方法の説明を受ける機会を設け、大学の資源を学修に効果的に活用できるようにする。</li> <li>・施設利用等に関する大学院生からの希望等把握し、事務局等と調整を図りながら、改善の可能性を検討する。</li> <li>・実践教育環境の強化が図れるよう、スキルスラボを整備する。</li> </ul>				

## 令和3年度 事業構想学研究科教育改善計画

研究科名	事業構想学研究科
研究科長名	中田 千彦

<b>1-(1). 令和2年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">分析手法、ポリティックサイエンス、統計処理などの理系科目の設置の検討。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">研究科の在籍者は文系が多く、上記のような理系科目を研究調査の際に活用する場面も少なくないと考えられる。学生からはこうした理系科目を研究科に設置してもらいたいという声もある。</td> </tr> </table>	課題	分析手法、ポリティックサイエンス、統計処理などの理系科目の設置の検討。	理由	研究科の在籍者は文系が多く、上記のような理系科目を研究調査の際に活用する場面も少なくないと考えられる。学生からはこうした理系科目を研究科に設置してもらいたいという声もある。
課題	分析手法、ポリティックサイエンス、統計処理などの理系科目の設置の検討。				
理由	研究科の在籍者は文系が多く、上記のような理系科目を研究調査の際に活用する場面も少なくないと考えられる。学生からはこうした理系科目を研究科に設置してもらいたいという声もある。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究ノートの作成、研究の進め方、論文の書き方などのリテラシー教育。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">一般社会人からの入学や学群、学部からの進学において研究論文の執筆に関する基礎的な学習が十分に行われていないという指摘もあった。</td> </tr> </table>	課題	研究ノートの作成、研究の進め方、論文の書き方などのリテラシー教育。	理由	一般社会人からの入学や学群、学部からの進学において研究論文の執筆に関する基礎的な学習が十分に行われていないという指摘もあった。
課題	研究ノートの作成、研究の進め方、論文の書き方などのリテラシー教育。				
理由	一般社会人からの入学や学群、学部からの進学において研究論文の執筆に関する基礎的な学習が十分に行われていないという指摘もあった。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">多様な院生の修学状況に応じた授業機会の提供について。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">遠隔地からの受講など、多様な修学状況に応じた学びの機会の多様性について、コロナ禍での教育手法の改善、開発の経験を活かして今後の可能性を検証する必要がある。</td> </tr> </table>	課題	多様な院生の修学状況に応じた授業機会の提供について。	理由	遠隔地からの受講など、多様な修学状況に応じた学びの機会の多様性について、コロナ禍での教育手法の改善、開発の経験を活かして今後の可能性を検証する必要がある。
課題	多様な院生の修学状況に応じた授業機会の提供について。				
理由	遠隔地からの受講など、多様な修学状況に応じた学びの機会の多様性について、コロナ禍での教育手法の改善、開発の経験を活かして今後の可能性を検証する必要がある。				
<b>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	<p>大学院への進学の際、多様なバックグラウンドを持った学生に対して一律に研究手法に必要な基礎的な分析手法などの獲得を求めることは難しいが、研究科への進学という特別な研究の可能性を得た学生たちにとって、理科系、文化系にかかわらず必要な手法の習得は必須であるとおもわれる。しかしながら、それまでこうした手法に関する学習をしていなかった学生たちにとって自学自習で身につけることを前提とするのは難しい側面もあり、必要に応じて課外科目などで修学の機会を提供するなど、研究科としても検討を行いたい。</p>				
②	<p>調査や実験、研究の蓄積、論文執筆に関する基本的な作法の習得は研究者として大学院に在籍する上での基礎と言える。一方、学生の多様性を考慮すると、こうした基礎的な要件を一律に満たすことについては課題もあり、充実した研究の実践のためには、研究ノートの作成、研究の進め方、論文の書き方などのリテラシー教育は必要不可欠であり、個別の面談なお度を充実させつつ、必要な要素の獲得のための教育改善に取り組んでいきたい。</p>				
③	<p>遠隔授業の実施、週末、夜間開講なども引き続き検討、展開していく。他方、サテライトキャンパスでの開講など、都心部での開講という長所はありながらも、従前のように時間と場所を制限した方法が今後の学びお機会の提供においてどのようなメリットがあるか、コストパフォーマンスも考慮して検討を進めていきたい。</p>				

## 令和3年度 食産業学研究科教育改善計画

研究科名	食産業学研究科
研究科長名	西川正純

<b>1ー(1). 令和2年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。</b>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究指導体制において指導教員以外の教員（副指導教員等）からの研究指導が実施できていない</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">コロナ禍の影響で複数の教員や学生による合同ゼミなどの場が失われたことによる。</td> </tr> </table>	課題	研究指導体制において指導教員以外の教員（副指導教員等）からの研究指導が実施できていない	理由	コロナ禍の影響で複数の教員や学生による合同ゼミなどの場が失われたことによる。
課題	研究指導体制において指導教員以外の教員（副指導教員等）からの研究指導が実施できていない				
理由	コロナ禍の影響で複数の教員や学生による合同ゼミなどの場が失われたことによる。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">居室・研究室等のスペースや実験設備があまり十分でない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できていないことが理由である。</td> </tr> </table>	課題	居室・研究室等のスペースや実験設備があまり十分でない。	理由	開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できていないことが理由である。
課題	居室・研究室等のスペースや実験設備があまり十分でない。				
理由	開学時から学群主体の研究室・実験設備となっており、大学院研究科設置時に研究室・実験施設等が整備できていないことが理由である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">講義やゼミ終了後の復習時間が十分に取れていない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">特別研究等での実験、フィールド調査等に時間がとられていることが原因と考えられる。</td> </tr> </table>	課題	講義やゼミ終了後の復習時間が十分に取れていない。	理由	特別研究等での実験、フィールド調査等に時間がとられていることが原因と考えられる。
課題	講義やゼミ終了後の復習時間が十分に取れていない。				
理由	特別研究等での実験、フィールド調査等に時間がとられていることが原因と考えられる。				
<b>1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</b>					
①	<p>本課題については、8月の教員会議・研究科教授会で情報の共有化を図る。具体的な方策としては、オンラインを活用した指導教員・副指導教員を交えた研究指導等の可能性を検討する。</p>				
④	<p>研究棟・実験棟のフロアマネージャーに未使用の教員研究室や演習室等を大学院生用に充てる作業を依頼する。また、大学院生の実験施設等については、学生実験棟の実習室を改修するなど、早い時期での実験施設の拡充に努める。</p>				
⑤	<p>本課題については、8月の教員会議・研究科教授会で情報の共有化を図る。具体的な方策として、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませること、さらに課題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施することで、復習の習慣付けを実現する。</p>				